

専念寺通信

専念寺通信

十二月号 (NO. 88)

12月に入り、寒さが増してまいりました。今年もいよいよ師走、みなさま、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。『通信』12月号をお届けします。

☆法然上人の言葉

一心に専ら弥陀の名号を念じ、行住坐臥に時節の久遠を問はず、念々に捨てざるもの、これを正定の業と名く。彼の仏の願に順ずるが故に。

今年最後の通信に、再びこの言葉をご紹介します。法然上人の言葉です。南無阿弥陀仏を唱えるためには、その場所も身体の状態も関係ない、ひとところにいなくとも、一箇所にずっといても、座っていても、臥せていても、関係がない。また、時間の長さ短さにも関係なく、時々刻々、念仏を唱える生活をこころがけ、これを捨てないようにする行、これこそが仏が選び、本願行とした正定(しょうじょう)の業(ごう)である、このように法然上人は言っています。もし煩惱があればそのままに、もし心が騒いでいてもそのまま、ただ南無阿弥陀仏と唱えればよい、と言っています。私共の寺「一心山 専念寺」は、法然上人のこの言葉に由来しています。「専ら(もっぱら)一心(いっしん)に」唱えること、戒律を守ることが難しくとも、ただ繰り返し念仏を唱えることで仏は救って下さるのだと言っています。

☆小さなお知らせ: 専念寺に新しい生命が生まれました。檀家さまから「赤ちゃんはまだですか？」と時々尋ねられましたが、大黒は再婚で(前夫を癌で亡くしており)娘がおりました。このたび娘が結婚致し、9月8日に男の子を出産しました。お参りの檀家さまのお目にふれることもあるかと思ひ、私事ながら、住職と赤子の写真を掲載させていただきます。

☆もうひとつ小さなお知らせ: この夏につくりました専念寺のホーム・ページ、ご覧になっていただけましたでしょうか。いま一度お知らせいたします。<http://sennenji.s296.xrea.com/> と打っていただければ、キリクの文字が出ます。『専念寺通信』の今年の号がすべてご覧になれます。檀家さまがメールを書けるページもございます。どうぞご利用ください。また、墓地の区画にもまだいくらかの余裕がございます。いつでも、電話、メールなどでお問い合わせください。

暮れにかけて寒さの厳しくなる時節でございます。みなさまくれぐれもお身体をたいせつに、よいお年をお迎えください。

平成19年12月1日 大黒

